



日本の緑化事情 / 緑化で発電所レベルの省エネ効果が期待できる?

毎年夏になると「観測史上最高値を記録：・・・」と報道される中、室内はエアコンの普及に伴いかなり快適に過ごせています。

しかしこのエアコンというものは、冷やしているのではなく実際には「室内の温度を外部に移動させている」といわれます。エアコンの室外機が夏場はもの凄く熱風を吐き出しているのは室内の高温を室外へ移動させているため、都市部のヒートアイランド現象の要因の一つです。

エアコンのフル稼働で電力消費はうなぎ登り。真夏の発電量は膨大な量に。東日本大震災での原発事故にともなう、全国の原発が停止されたことから電力不足になりかねない状況で、エアコンの設定温度を上げて緩和したり、計画停電も行われました。

ビルなど建造物を屋上緑化・壁面緑化でおおくと、日よけ効果から室内温度も下がるわけですが、エアコンの稼働率

が下がります。これをもし東京都内全域で行うと積もり積もって結果的に東京の平均気温も下がることになりそうです。

試算によると、平均気温が1度上がると電力消費量が400万キロワット増大するそうです。もし逆に平均気温が下がれば単純計算で400万キロワット減少することになります。

平均気温が1度下がると、発電所1施設以上の電力が抑えられる事になるようです。

緑化一つ一つでは大したことはありませんが、たくさん増やせば、副産物として電化に伴う利便性向上の副作用として気温が上がるが、それを抑えるべく、緑化を施せば、副産物も少なく済むことになるので、緑化というものの重要性が伺えるかと思えます。

スタッフ紹介

休みの日は好きなことをして気ままに過ごしています。趣味はたくさんありますが、とりわけ好きなのは一人旅。自分で車を運転して、好きな曲をかけながら遠出し、

大日化成に入社前はドラッグストアの責任者をしていました。医薬品の接客やレジ打ち、品出しや売り場作りなど店舗での仕事が主であり、立ちっぱなしでの業務がほとんどでした。一日中パソコンと向かい合う仕事は初めてで、慣れるまでが大変でしたが、今は優しい先輩方にも困りません。働かせていただいています。

昨年七月より大阪本社で仕事をしています。宮井と申します。

主な業務はいただいた注文の処理や電話応対、請求業務、仕入業務などです。請求関係の業務等、金額の絡むものは一円でもずれていると大ごとなので、特に気を使います。入社して一年半になりましたが、まだまだ覚えることや知らない業務がたくさんあります。材料や工法名、どういった場所などというタイプの防水材が使用されるのか等々、最近になりようやく製品についての知識が付き始めてきたな、と感じています。



大阪本社では私が一番の新人になりました。仕事のミスは先輩方にカバーしていただくことも多く、日々勉強の姿勢を持って仕事に取り組むことが大切だと感じています。至らぬ点もまだまだ多いですが、精一杯努力してまいりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

様々な景色やおいしいものを楽しんでいて、晴れた日の海沿いや川沿いを走っている時などは最高に心が躍ります！

大抵の場合は目的地を決めて出発しますが、何も決めず適当に方向だけ決めて突進したり、行き当たりばったり感を楽しむのもよいものなんです。細くて暗い山道なんかに迷い込み、なんでもないと遭遇したのも今では楽しい思い出です。

DAINICHI CHEMICAL CO., LTD.

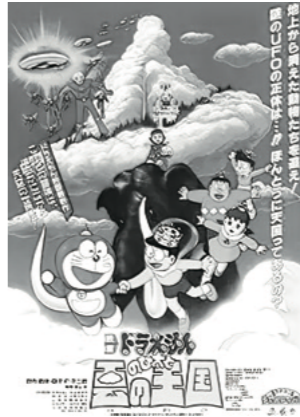
- 本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702
- 東京支店
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

次号も
お楽しみに

URL : <https://dainichikasei.jp>

映画で学ぶ 環境問題



映画ドラえもん のび太と雲の王国

監督：芝山 努
脚本：藤子・F・不二雄
原作：藤子・F・不二雄
出演者：大山のぶ代 小原乃梨子 野村道子

上映：97分
配給：東宝
公開：1992年

ドラえもんといえば1970年代に登場してから老若男女に大人気でマンガ・テレビ・映画・グッズ・コラボとありとあらゆるところで活躍し、未だ人気が衰えません。昨夏のユニバーサル・スタジオ・ジャパンでもXRライドのコラボとして人気を博し、キャラクターとしてグリーティングにも登場するなど大活躍でした。

その配給収入をもちならず大人気作で、2024年も公開が予定されているので楽しみにしている方も多いかと思えます。

そんなドラえもん映画の中で環境問題をテーマにしている作品があり、今回はその一つを取り上げてみたいと思います。

公開は1992年で約30年前の作品です。そのため現在とは違う環境問題が取り上げられてはいますが、時代が変わっても環境問題を考えるという意味ではなんら変わりません。アマゾンプライムでも観る事が出来るので是非ご覧になってはいかがでしょうか。

この先はのび太やドラえもん活躍により最悪の事態を免れるのですが、地上に洪水をもたらすのは今のゲリラ豪雨や海外での巨大ハリケーンを想像させてしまいます。

約30年前の環境問題と言えばフロンガスがオゾン層を破壊するというもの。その特性から当時の急上昇産業である基板の洗浄に使われていたものが大半ですが、エアコンや冷蔵庫にも使われていたもので、代替フロンというものが早く開発され、急ピッチで代替、対象のフロンの回収

ストーリーは雲の上に実は天井人という人間が住んでおり地上から絶滅した動物などと一緒に暮らしているのび太やドラえもんが迷い込んでしまおうというものです。

その天上界ではなにやらおかしい雰囲気が漂っており、とあることでその内容がのび太たちに知られてしまっています。

地上では環境破壊が激しく、動物は乱獲等により絶滅の危機に瀕し、地上人が好き放題続けた結果、大気汚染が天上界にも悪影響を及ぼしており、このままでは天上界も滅ぶと考えた天井人が、地上に大雨を降らせて地上人ごと地上を滅ぼそうとしていたのです。

つまりはノアの方舟のように、大洪水をおこして世界を浄化するというものです。

も世界各地で行われた結果、オゾン層は守られました。

近年では二酸化炭素問題。二酸化炭素の排出は様々な論があります。飛行機は飛ぶ毎に多量の二酸化炭素を排出することから、それに変わる移動手段の鉄道がよいと言われるかもしれませんが、鉄道は端から端まで線路を確保しなければならぬため、その環境破壊と建造時の二酸化炭素排出を天秤に掛けると、空港を作るだけなので飛行機の方が排出は少ないと唱える学者もいます。

このレベルでは我々一人一人が決めることは出来ません。しかし出来ることもあるかと思えます。現代ではなくてはならないものが本当に必要なのか、今一度考えてみてはと思います。

食生活に例えると牛肉100グラムを作るのに50キロもの二酸化炭素が排出されるそうです。エサや牛の呼吸、輸送の手段などトータルに計算するとこうなるそうです。

とはいえ、食べないわけにもいきませんし、食べなくなるのと畜産業界が落ち込みますので、余計なものを買わない、余らせない。などの一人一人の行動が積み重なり、これらの環境を変えていくことになるのではないのでしょうか。